

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を正面玄関に掲示しています。今年度は、事業所独自の理念を接遇委員会にて検討し、「まごころと思いをつないでみんなが暮らせる家」という理念を作り、職員で共有をしました。	前回評価の課題とされていた、事業所理念を接遇委員会が中心となって、全職員で事業所名の「まつみ」を頭文字として1ヶ月ほど前に完成したところであり、出来上がった理念をみんなで形にしていこうと話合っている。共有も、理念を反映した実践もこれからという段階である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し清掃活動や防災訓練に参加しています。町内の行事にも参加させていただき、七夕祭りや花見会に利用者と職員で参加させていただきました。地元の小学校児童の訪問があり、授業の一環で施設見学をしていただきました。また、地元保育園の園児にも慰問に来ていただき交流を図りました。	もともと事業所のある町内会は、行事が沢山あるところで、七夕祭り、観桜会などの参加できる行事には参加し、利用者も楽しんでいる。清掃活動は川べりの草刈りなどが中心の為、利用者の参加はできないが、職員が参加し、地域住民と共同作業を行っている。2年に1回の防災訓練には利用者も参加している。また、昨年から保育園児の慰問も実施され、利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や高校生の職場体験の受けれを行っており、施設の取り組みを紹介しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設する小規模多機能事業所と合同で開催しています。利用状況や行事の様子をお伝えしたり、サービスに関する協力や助言、指導を頂いています。	2か月に1回の定期開催には、自己評価報告、広報誌、現状報告、ボランティア募集等各種資料を添えて、委員の理解、協力を要請している。現在は他事業所の参加はないが、情報交換も考えて、他事業所に委員をお願いしてみようと思っているところである。警察官や消防署の協力の必要性も感じている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として、市役所の介護高齢課の職員1名・地域包括支援センターの職員1名に参加をお願いし、事業所の報告をするとともに意見を頂いています。	認知症の困難ケースの相談などに度々出向いていて、事業所で事例提供した地域の事例検討会が事業所を会場として開催された。他のグループホームからの参加もあり、有意義な意見交換の場になったという意見や、来月には同業者協議会開催の情報ももらうなど、市役所や地域包括支援センターとの連携は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、施錠等はありません。身体拘束廃止マニュアルを作成し配布しています。新任職員にはマニュアルをもとに、虐待についての指導を行いました。	現在は、利用者が比較的落ち着いており、徘徊の利用者も建物内を職員とともに歩いているうちに収まったり、帰宅願望の強い利用者にも、職員が気持ちを理解するようになだめることなどで穏やかになるなど、細やかな気づきや配慮によって拘束、施錠をせずに済んでいる。研修も実施され、職員も身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルと外部で行われた研修会資料をもとに、内部研修を実施しました。	外部研修の伝達研修、マニュアルに基づいた内部研修を通して、虐待防止に努めている。今後も虐待は起きないという前提ではなく、誰にでも起こり得ることとして、職員同士、ストレスを上手に発散しあう方法を考えたりしながら、虐待防止の徹底に努めていかれることが期待される。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方、成年後見人の手続きを進めている方がおり、包括支援センターや社会福祉協議会と連携して支援をしています。また、法人内の研修に参加し制度への理解を深めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には出来るだけ見学をしていただき、不安や疑問に思われたことにお応えしています。利用開始前に契約書・重要事項説明書についてご家族に説明を行い承認を得てから利用を開始していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置しています。日常生活や会話の中から利用者の思いや要望を確認し実現に向けて取り組んでいます。ご家族様へは面会時や電話連絡の際に要望等を気軽に言ってもらえるよう話をしたり、声に出して頂ける関係作りに努めています。	利用者、家族等の意見や要望は面会、電話連絡時に聞くようにしている。意見箱は設置してあるが、投稿があったのは1回だけである。公表等も特にしていないが、設置場所等についての検討もされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用や毎日のミーティング、日々の話し合い等で意見の交換や提案を聞く機会を設けています。また、全職員を対象に個別の面談も実施し、直接意見を聞き業務に反映できるよう努めています。	意見の言いやすい環境はできている。言いやすい人に意見や要望を伺っているが、産休者も含めて6人が職場からいなくなり、補充が追いつかず、業務がきつくなっていることに対する改善要望には応えられていない現状はあるが、職員補充についてはいろいろな努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、職員が向上心をもって勤務できるよう努めています。資格取得に対する支援も行い、スキルアップ、キャリアアップの体制を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の施設と研修の協力体制を取っています。外部研修にも積極的に参加し、研修における復命書を回覧することで研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や市内の事業所連絡会などに参加しネットワークづくりや、情報交換、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に自宅やサービス事業所へ訪問し生活状況の確認や、本人・家族との話し合いにより生活歴や本人の思いを理解し受け止め、安心して生活して頂ける関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族との面談で不安や要望等確認しています。また本人に対する生活の意向を確認し、サービス計画書に反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面談にて、本人・家族の困っている事を聞き取り必要な支援を見極め、必要に応じて他のサービスについての説明も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作り、生活の中で出てくる家事全般を入居者様と職員で一緒に行うようにしています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、受診、居室の環境作り等、ご家族からのサポートや協力が施設での生活には欠かせない要素として捉えており、ご家族しかできない関わり方等をお願いするとともに、協働する関係づくりを大切にしています。	開所当初から、家族との連携を大切にしながら本人を共に支えあう努力をしてきた結果、現在は落ち着いた生活ができるようになってきている。職員一人ひとりの対応からも、細やかな心遣いが感じられる。	折に触れ、家族の要望を聞き入れたり、家族にしかできない精神的な支援をお願いするなど、きめ細かな対応ができているが、個々の記録が確認できない現状がある。これ迄積み重ねてきた実績を記録に残すことにより、後進の大切な指針にもなることから、今後は、記録の整備、管理が望まれる。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室の利用を継続して頂いている方がいます。知人や近所の方が面会に来て下さる事もあり、これまでの関係が途切れないように努めています。	事業所内の会議室を町内会の会議等に開放するなど、地域の住民が自由に出入りしやすい環境から、昔のサークル仲間や、近所の友人なども面会に来てくれている。事業所提供による関係継続の支援に積極的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮し、食事の席を工夫したり、個別の活動や役割を提供しています。利用者同士で声を掛け合って家事をされたり、介助が必要な利用者に対し、他の利用者が手助けする場面もあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスの利用が終了しても、必要に応じて相談や支援に応じ、情報提供や他サービスの利用につながるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当介護員と計画作成担当者を中心に、生活の中で利用者の思いや考え等把握し、要望に対応できるよう心がけています。思いは職員で共有するよう、昨年度から導入した「私の気持ちシート」に記載し、必要に応じてカンファレンスやケアプランに反映させています。	利用者、家族等の要望は勿論のこと、行動や表情からも日常の関わりから感じ取ることのできたことを、昨年から導入したという「私の気持ち」シート上に、引き出された思いや意向が仔細に記載されている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との関わりの中で、これまでの暮らしぶりや環境を把握するようにしています。職員間での情報交換を行い、共有するようにしています。	担当職員や計画作成者が中心となって情報収集に努め、生活歴等については、時間をかけて情報を充実させていくようにしながら、利用者の心地よい暮らしの継続が出来るよう日々取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を確認しながら、本人のペースを大切に、過ごしていただいている。また、出来るところは、手を出しすぎないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を確認し、カンファレンスを行い現状に応じた介護計画を作成するよう努めています。	本人・家族の意向を踏まえ、「私の気持ち」シートに記載された事を深く尊重し、利用者のプランに反映させ、1年に1回の見直しとモニタリングの実施をしている。状態に変化があれば随時、見直しをしている。	昨年度より導入した「私の気持ち」シートが介護計画書に反映されているが、より良いケアの発展に向けた、利用者個々の目標達成のための具体的な「サービス計画」が作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット端末を利用し、さらに申し送りノートや気づき共有シートで職員間の情報共有を行い、支援内容の工夫を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やニーズ・ご家族の希望、その日の体調や天候など様々な要素を考慮し、その方の生活リズムを大切に考え、臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の町内行事に参加させていただいています。また、防災訓練にも町民として参加させていただきました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に通院を行っている。家族が付添ができない際には、事業所にて対応ができるようにしています。かかりつけ医とは、手紙や付き添いにて関係作りを行っています。	受診については、本人、家族の希望するかかりつけ医が基本となっている。事業所の協力医療機関が歩いて行ける近隣に位置し、受診しやすい環境となっており家族の安心となっている。今後も細かい体調の変化や状況、日常の様子等を、確実に医師に伝えられる方法の共有化と家族、職員等の適切な支援が期待される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する小規模多機能と兼務の看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じ相談や対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院に出向いたり電話にて状態確認や病院関係者との情報交換を行っています。また、カンファレンスにも参加し退院に向けた調整も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについて、12月に法人内で行われる研修会に参加予定です。研修内容を職員が共有できるよう、内部でも研修を行いたいと考えています。	現在、事業所としては看取りはしない方針となっている。希望する家族もあるが開所2年目で緊急時夜間の対応等の了承が協力医療機関から得られていないことから、手始めとして、事業所関係の看護師との連携を図るべく、検討を進めているところである。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修委員会が計画した緊急対応研修を実施しました。また、法人内の施設にて実施された普通救命講習にも参加し、急変時の対応の訓練を行いました。	今年度、AEDの設置は出来なかったが、救命研修に参加し、また事業所内でも緊急時の対応について研修も行われている。今後は利用者により起こり得る初期対応のマニュアルの整備とともに、職員全員が緊急対応を実施できるようにと、検討を進めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して防災委員会が計画した避難訓練を行っています。火災、地震想定の実施、夜間想定の実施、非常呼集訓練も行っています。 今年度は地域の防災訓練に合わせて施設内でも避難訓練を実施し、地域の一次避難所まで避難しました。また、地元消防団に参加して頂く訓練も計画しています。	防災委員による避難訓練を計画し、年1回消防署立ち会いの下、夜間想定で引き続き全員避難を基本とした避難訓練を実施している。また地域活動も活発であり、地元消防団による訓練も来月実施予定など、積極的な取り組みを図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、尊厳を傷つけないよう言葉使いにも配慮しています。また、接遇委員会を中心に、言葉かけの見直しを行っています。	接遇委員を中心に日頃から利用者の尊厳に配慮した対応が実践されている。不適切と思われる場面に出遇った職員が、即、注意を促すことで職員相互の意識向上に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中の一つ一つの動作や作業の中で、常にご本人に声かけをし、意向を聞きながら活動をして頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課に沿いながら、一人ひとりのペースや生活リズム、要望の把握に努め、その人らしく過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人と選び、気候にあった本人の好きな服装をして頂いています。理髪についてもご本人の要望を聞いて利用して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、下ごしらえ、味み、後片付けなどを職員と共に行って頂き、昼食は職員も一緒に食べ感想を言い合いながら楽しく食事をしよう努めています。	日常的に食事の準備では、主に野菜の刻みやおしぼりの準備、配膳等、利用者の無理強いににならないよう、力を借りながら進めている。メニューは担当職員が季節のものを取り入れながら1ヶ月単位で作成し、時には外食も楽しんだり、近隣のラーメン店から出前をしてもらうなどして、利用者を楽しんでもらえるような工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立を参考にし、食事を提供しています。食事量についてはケース記録に記載することで把握し、必要に応じて補食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じ、介助を行っています。就寝前には義歯洗浄を行い、清潔保持に努めています。また、協力歯科医院による口腔ケア指導も実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのしぐさ、表情や様子から排泄サインを察知し、その人に応じたさりげない声かけで誘導ながら、トイレでの排泄ができるよう支援しています。	法人の他施設から移動してきた職員による、排泄自立の成功体験を活かしながら、個々の排泄パターンを把握するとともに、表情などからのサインを見逃さないようにして、排泄の自立を低下させない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の状況を把握し、看護師、主治医との連携も図りながら、個々に応じた対応をしています。 腹圧をかけられない方に対して、運動にて排便を促す対応を行いました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本となる入浴予定表により、その方の体調や希望によって、日時を変更しながら入浴して頂いています。入浴が困難な際は清拭や、シャワー浴、足浴等で対応しています。	一人ひとりの希望に沿った個別の支援は考えてはいるが、特に毎日入浴を希望する利用者もおられない様子である。重度の人への対応は現在無いが、必要となった時には廊下続きの、小規模多機能施設に備えてある「リフト浴」の共用を考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて休息して頂いています。又、安心して気持ちよく休まれるよう環境整備に努め、季節ごとの寝具の入れ替え等支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や用法、副作用について説明書にて確認しています。症状の悪化や状態変化時には看護師、主治医に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	米とぎ、食堂掃除、食器拭き、洗濯たたみ等、日常生活の中で、その方が得意とする事を役割としてやっていただき、やりがいを感じ活躍できるよう支援しています。また、趣味の編み物や読書を続けられるようご家族の協力をお願いしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど季節や天候に応じて随時行っています。白鳥見学や紅葉狩りの行事も予定しています。また、地元の七夕祭りや春祭りにも参加しています。	利用者全員に対して、日常的な外出支援や個別の支援までは難しいとしながらも、ドライブで利用者の気分転換を図ったり、近くのポートパークに散歩に出かけたり、地域の行事に参加したりと、利用者の思いを精一杯汲み取る努力が感じ取れる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては金銭管理をしておらず、原則ご家族の管理となっています。個別にお金を持っている方がおり、買い物の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙などやり取りが出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂では季節を感じられるように装飾を変え、中庭には野菜や花を置いて四季を感じて頂いています。利用者の希望を聞きながら冷暖房を調節しています。天候などに応じて、中庭で茶話会や、談笑を楽しんで頂けるようにしています。	機能的に造られた事業所は、全ての居室に平等に自然光が射し込み、とても解放的で明るく、居心地良さが感じられる。建物の中心には中庭が有り、共用スペースから床続きとなっており、四季折々に楽しめる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の食堂の他に交流ホールや中庭のベンチ、各個室等、本人が好きな場所で過ごしていただけるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族に使い慣れた家具や思い入れのあるものを持ち込んでいただくようお願いをしています。	居室はベッドのみの備え付けとなっているが、個々の思いや、慣れ親しんだ生活用品等の持ち込みに制限はしていない。利用者は各自、自由に自分らしい生活空間づくりを楽しんでいるようである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの安全な環境を整え、施設生活では自宅で困難であった動作も自立して行えるよう支援しています。		